
新人弁護士カプリッチョ

小宮山蘭子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新人弁護士カプリッチョ

【Nコード】

N1486L

【作者名】

小宮山蘭子

【あらすじ】

私は難関の司法試験に受かったちゃって、晴れて司法修習性になっちゃって、やがて、弁護士になっちゃいます。そんな私の、サクセスストーリー！……ってほどでもない話。

（前書き）

この作品は『職業小説企画』にエントリーしています。

大学4年のとき、司法試験を受ける決意をした。

「こんな就職難のご時世に、どっかの企業に入ってOLっつーのもなあ〜」なんてぼんやり考えてて、“そうだ、京都に行こう”みたいに、「そうだ、なんか資格とってみよう」って思い立って、「まあ、どうせ勉強するなら、無敵のヤツに挑んでみようかしらん？」みたいに……

取っかかりはそんなふうに、すごくいい加減なスタートだったけど……

で、いざ始めたら、やっぱりとんでもなく難しかったけど……
どんな時も、好きだったおじいちゃんの「一度決めたことはやり通せ！」っていう遺言を守ってきた私は、絶対に受かるまでやり続けよう！ と、燃えた。そう、「じっちゃんの名にかけて！」……
まあ、じっちゃんは無名です。すみません。

それから3年、我ながら恐ろしくくらい法律の勉強に集中した。
過去の高校や大学の受験勉強なんて比にならないくらい、それはもうめっちゃくつちに。がむしゃらに。

恋も海も山もクリスマスもぶっ飛ばして、お洒落もせずダイエツトもせず、なりふり構わず猛勉強して……4回目で受かったの。

まあまあでしょ？ ね？

でね、それからは1年間の『司法修習生時代』を過ごした。

司法試験受かったからって、その時点ではまだ何者でもないのね。何者になるかは、修習時代に、裁判所だの検察庁だの法律事務所だの、いろんなところに配属されて、研修を受けてから自分で決めるの。ほら、学校でも、『教育実習生』だっけ、年に一回ぐらい学校に来てたでしょ？ ワクワクしたよねえー 自分のクラスに来た大学生

の実習生を「かつこいい」とか「ブサイク」とか、「やさしい」とか「初々しい」とか、「かつこいい」とか（↑二回目）品定めしていろいろ騒いじゃってさ」

まあ、ああいう感じ……はあ？

各配属先で、刑事裁判・民事裁判・弁護・検察・選択修習つてのを2ヶ月ずつお勉強する。毎日大変だったけど、楽しかった。

夜になったら、同期の人たちと飲み歩いたりしてーもちろん、先輩弁護士さんたちからもたくさんご馳走してもらったりしてー……って、そういう思い出しかないのか、自分。

だけど、勉強ばかりしてきた私たちは、やっと一端の大人になれた気がして……まあ、まだ勉強みたいなもんは続いていたけど、社会人デビュー果たせたみたいで、本当に毎日嬉しかった。その一年間は、ちゃあんと国からお給料も出るしね、うん。

同期の玉岡さんは、「嫁に苦労ばかりかけてきたけど、やっと家族に楽をさせられる」って、初任給もらって泣いてたなあ。麗しい夫婦愛、じーんってもらい泣きしてたら……

ただの鬼嫁らしいっす……

もらい泣き（再）

そんな玉岡さんは、司法修習生ではなく教育実習生だったら、校内では『ザビエルはげ』ってあだ名決定！ みたいな、笑いのにおいしい頭してたけどー いちおう、まだ35歳の人。

で、最終的に、通称『二回試験』っていう、二度目の司法試験みたいなヤツ受けさせられて、それに受かったら晴れて修習の終了。

「しゅうしゅうのしゅうりよう」……早口言葉かつ

これが案外難しくて、ヒヤヒヤもんだった。でさあ……

落ちちゃったんだよね……

いや、私じゃないよ。

ザビエ……玉岡さん。

うわーん。

鬼嫁がどんなことになってるか、想像すると夜も眠れない。

んなことは、置いて。 (えー)

そのあと、三択で決めるの。裁判官になるか、検察官になるか、弁護士になるか。

私は弁護士を選んだ。だって、裁判官に進むなんて、同期の中でもトップクラスの超エリート。検事つてのも、なんかイメージ固くない？ ねー 柄じゃないしい。

弁護士しかないもんね。…… って、消去法かい。

大した志もなく、ただ安定と名誉とか、そういうので弁護士になるなんてさ、不純だよ。ね。ごめんなさい、神様。でも、わたし、頑張るもん。だって、だって……

目指せ、まずは年収3000万！ どうかーん！

でもね、一昔前より弁護士の数が増えたせいか、年収は下がってるみたい。昔は平均2000万とか言ってたのにね、今は、800万ぐらいだって。

それにね、弁護士って、ドラマなんかで見かけるとやたらカッコいいけど…… 扱うの『殺人』ばっかじゃないのよう。めったに来ないわようー 荒波が打ち寄せる崖つぶちに立って、被疑者を説得…… ないない。そもそも、そんな仕事してたって、大した報酬はもらえないし…… いや、ホント。

刑事事件って、神経使う割に弁護士報酬は安いのだ。だから本当に正義感とか使命感とか公平さとか、そういうの、試されることもありそうなんだー。

いやこう見えて、私、けっこう情にもろいからさあー

有無を言わず引き受けなきゃならない『国選弁護士』で、“『強盗強姦放火殺人』の被疑者を弁護してちょーだい”って言われても、できないかもー

いやだあゝ

ムンクの叫びみたいになってまうー

どないしょー

そんなん、一生回って来ませんようにいい

だけど、何にしても、民事の方が多くなるのは確実。

報酬も、刑事事件と違って訴訟額に比例する。訴訟額つてのは、相手に請求したり権利を争ったりするモノ——訴訟の対象となる物の金額のこと。大手企業のクライアント持っていたりすると、訴訟で扱う物件もハンパなく高額になり、おのずと報酬もすごいことに…… ああん、うつとり。

そついうのもあつて、どこか企業とか個人（↑だいたい金持ち）とかの『顧問弁護士』になるが一番堅いのん。毎月最低でも5万くらいの顧問料も入るしね。つまり、そついう顧問先をいっぱい抱えてたら、“×5万” って金額が、定期的に入ってくるのね。5万、最低ラインだしね。有名弁護士のいる事務所だと、100社とか持つてるところもあるしね。わーお。

で、裁判となると、最初に『着手金』、プラス、裁判が全部終わってから『報酬金』をいただきます。それ以外に、裁判所に払う訴訟費用とか、交通費や郵便料金みたいな実費とかをお預かりします。用意するのが厳しい人には、ちゃんとフォローする制度もあるのーす…… だから、うふふ、怖がらなくていいのよー 訴訟バージンも、法律チエリーボーイも。あはん。

まあ、ある程度の基準満たしたら、弁護士の言い値みたいなときもあるから（って人聞き悪いなあ。つまり、依頼人の事情を考慮してくれる弁護士もいるってこと）、ご依頼をお考えの方は、良い人にあたることをお祈りします、合掌。

そつは言つても、当の私はね、がつつり獲るわようー おほほほほほ。

だけど、そついうのはもつともつと先の話。

最初から自分の事務所を構える人なんていなくて、ほとんどがどこかの法律事務所に入り、経験を積むの。そういう若い弁護士のことを『イソ弁』って言う。ノリ弁じゃないよ、イソ弁ってのは、『居候弁護士』のことだよん。

私は、65歳の超ベテラン弁護士・広瀬先生と、48歳の中堅バリバリ弁護士・坂田先生のいる『ひろせ法律事務所』のイソ弁になった。修習時代、弁護士修習で2ヶ月お世話になったこの事務所が、たまたま新人募集してたので面接受けたら、うかつちゃった。

「うちも若返りをはからねばー 女の人なら華やかだから、モアベター」

って広瀬先生が言って、その場で決まった。

事務所で抱えている事件のほとんどは、二人の先生の連名で行われている。でも、所長の広瀬先生はもう年だから、裁判に出て行くのは、だいたい坂田先生。

初出勤の日、坂田先生に呼ばれて応接室に行ったら、すでにちょこんとソファに座っていた広瀬先生が、水色のファイルを取り出しながら、

「はい。これ、君の初仕事」

って、ニコニコしながら言った。

「うわっ ありがとうございます!」

「いいこー がんばれー」

って、どこの好々爺だ。

でも感慨深いー うるうるー

苦節4年、いよいよ、弁護士として本格的なスタートを切るんだ。仕事バリバリして、年収3000万目指して、置いてきた恋や海や山やクリスマスを取り戻して堪能して、お洒落もダイエットもやり倒すぞおおー

すると、坂田先生が、メガネの奥で切れ長の目をキラーンと輝か

せ、

「連名にしとくけど、まずは自分で考えてやってみてごらん、離婚訴訟だよ」

と、含み笑いを浮かべて言った。

オッサン、なに笑ってんねんっ！と思いつつ、

「離婚ですか……」

つて、つぶやきながら、ファイルを開くと……

『依頼人・玉岡睦夫』

だあああ——————！！！！

「あはは。君、知ってる人でしょ？ 奥さんから三行半叩きつけられたらしいよ」

おーまいがっ ザビエルう。

人生は厳しいのう。もらい泣き（再々）

この弁護士つてのは、そんな人生の荒波を、依頼者と手をつないだり、肩を組んだり、おんぶしたり、時にはお姫様抱っこしたりするような想いで、一緒に乗り越えていくのお仕事だ……と、思ふ。

正義とか権利とかそういうことを振りかざすのは性に合わないし、照れくさいけどさあー

まあ、善悪や悲喜が渦巻く社会の海で（社会の窓じゃないよ……すみません、つまらないこと言つて）、ひいひい溺れてる人たちに浮き輪投げたげて、

「つかまっていいよ。とりあえず、話は船の上でね」
つて、言つてあげる感じ？

んでもって、トラブルを攻略するためのアイテムとか、裏技みた

いなこととか教えてあげんの。ズルじゃなくって、お上をも黙らせる正々堂々としたステージクリアの方法をね。

がんばろーぜ、ザビエルはげ。

さあて、私の人生も、めくるめく法曹力オスの中にゝ

これからスタートだ。がんばらなきゃあゝ

じっちゃんの名にかけて。目指せ、3000万！　って、しつこい。

だけどね、いくら初仕事ではりきってるからって、ザビツてる玉岡さんをお姫様抱っこなんか、しないよ？

あたりまえじゃん。

オーライ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1486/>

新人弁護士カプリッチョ

2011年3月23日22時10分発行